



■ 事業本部の方針

自動車業界は、コロナ禍および半導体不足などの影響もほぼ解消し、旺盛な輸送需要を受け、自動車専用船は慢性的な船腹供給不足が続いています。当社は最適な配船・オペレーション計画により、船腹供給不足の中でも確実に輸送台数を確保しています。

新造船が2025年頃から続々と竣工してくる予定で、解撤や減速航海の推進により、ある程度バランスが取れると思われませんが、当社は次世代燃料船を軸に、中長期契約の獲得を進めることで、市況変動の影響を最小化していきます。

近年、電気自動車の需要が世界中で高まっており、一時の過熱感は落ち着いてきていますが、長期的には出荷も増えてくると見られ、輸送上の安全や品質面での取組も引き続き進めていきます。

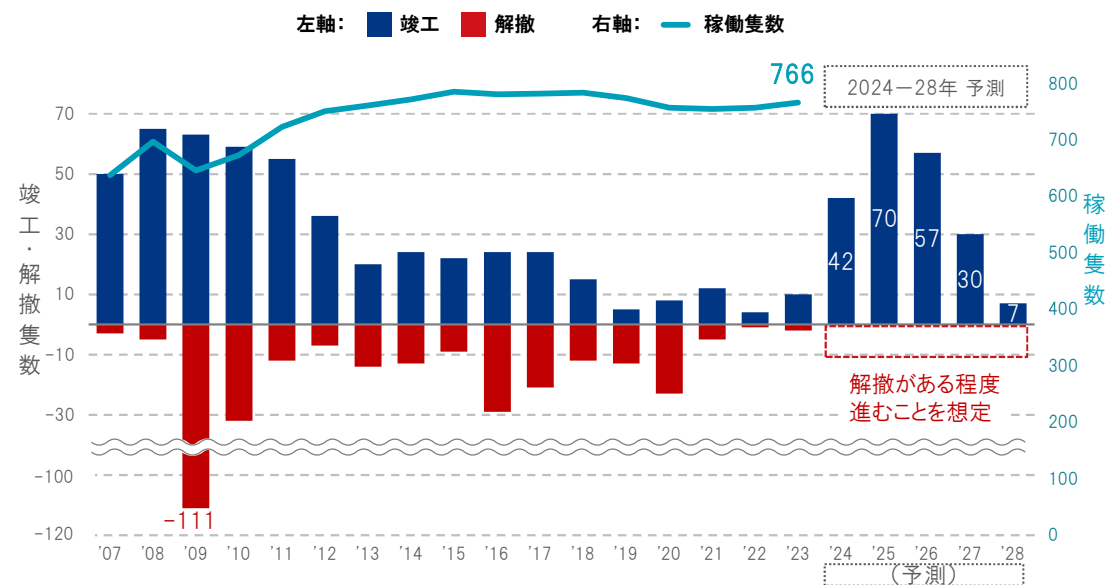
自動車専用船オペレーターランキング(2023年12月末時点)

ランキング	会社名	隻数	シェア(%)	キャパシティ(台数)	シェア(%)
1	WWL	111	16.2%	751,969	18.4%
2	日本郵船	108	15.8%	661,726	16.2%
3	商船三井	84	12.3%	513,809	12.6%
4	川崎汽船	79	11.5%	480,908	11.8%
5	GLOVIS	73	10.7%	482,640	11.8%
6	GRIM	56	8.2%	264,313	6.5%
7	HAL	35	5.1%	241,615	5.9%
8	GSL	16	2.3%	81,340	2.0%
9	NEPTUN	16	2.3%	66,290	1.6%
10	トヨフジ海運	12	1.8%	57,760	1.4%
11	ARC	9	1.3%	59,706	1.5%
12	UECC	8	1.2%	33,210	0.8%
13	VWL	7	1.0%	41,400	1.0%
13	SALLAU	7	1.0%	31,839	0.8%
13	AN JI	7	1.0%	30,700	0.8%
—	その他	56	8.2%	276,854	
合計		684		4,076,079	

出所: Hesnes Shipping AS “The Car Carrier Market 2023”より日本郵船にて作成

備考: ・WWL社の隻数はグループ傘下のEUKOR社の隻数を合わせた数字
・積載台数3,000台以上の自動車専用船を対象としたランキング

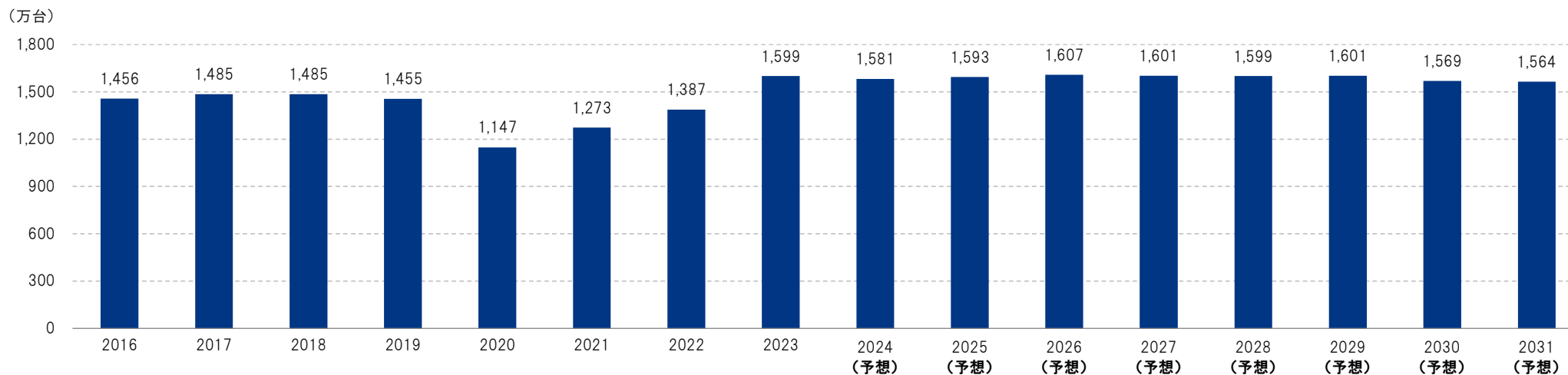
自動車専用船 竣工・解撤・稼働隻数



出所: Clarksons社のデータを元に日本郵船にてグラフ作成

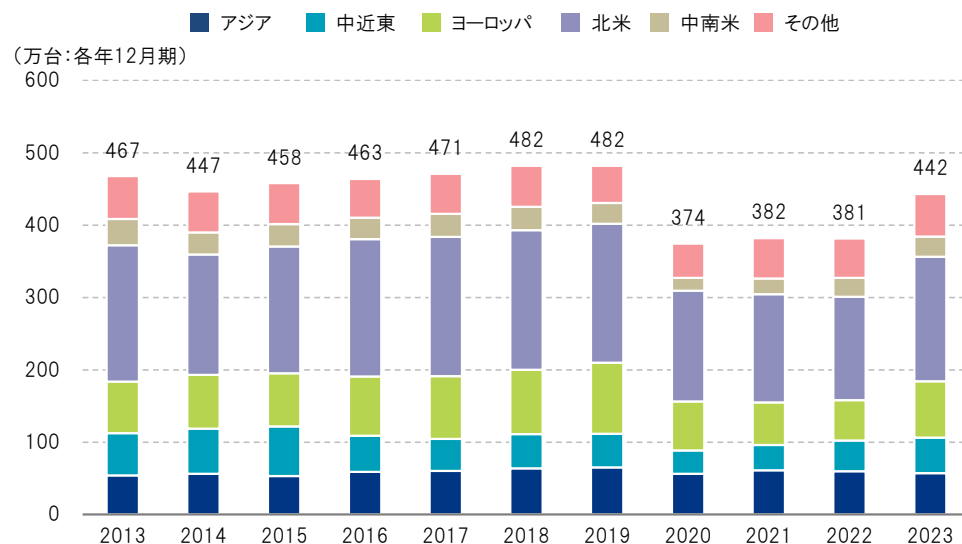
備考: 積載台数3,000台未満(2024年4月時点で69隻)も含む

世界自動車 海上荷動き台数(域内輸送を除く)



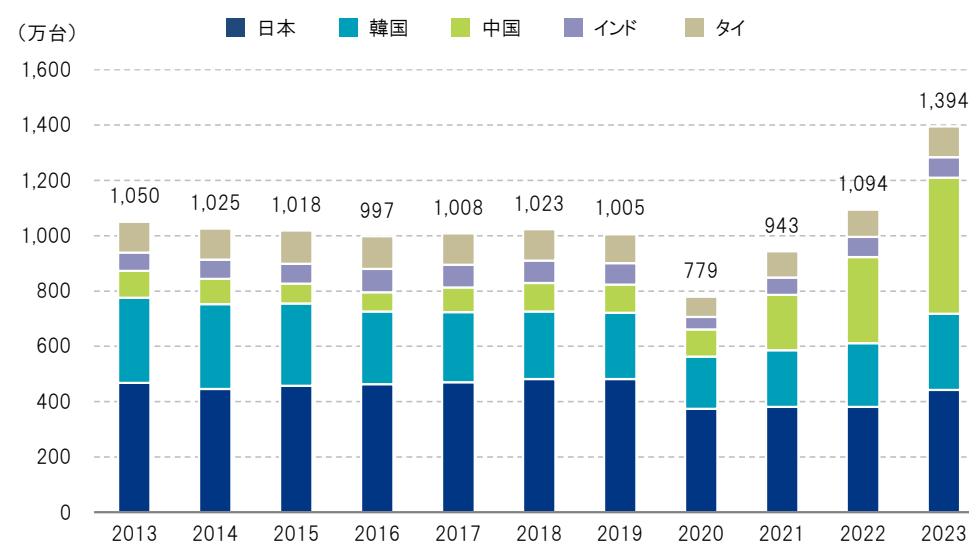
出所: 日本郵船にて推計

日本の自動車輸出推移(仕向地別)



出所: 日本自動車工業会(JAMA)

アジア主要国自動車輸出推移



出所: 日本自動車工業会(JAMA)、FOURIN、CAAM